

## 第2期中期経営計画 評価委員会での意見(集約) 2021年度上期

経営戦略 (4つの姿勢)	重点 項目	16の具体的な取り組み	評価委員会の意見(集約)	上期 評価
<b>I 利用者 に対する姿勢</b>	I-1 はたらく・暮らす・相談する支援の強化	①個別支援計画に基づいた自立支援に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2通所支援事業部の取り組み報告から、上期の進捗状況は○(達成)ではなく、△(一部未達)ではないか。</li> <li>・第三者評価事業について、当該事業所の職員への周知は徹底できていたか。</li> <li>・第三者評価事業について、他法人の結果も参考にしてフィードバックしてはどうか。</li> <li>・生活支援事業部の利用者アンケートの結果共有と改善立案について、一般的には両者は同時に行うものではないか。</li> <li>・進捗状況が△(一部未達)や×(未達)の場合、その理由も記載していただきたい。</li> </ul>	B
		②取りこぼさない、途切れない相談支援に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。</li> </ul>	A
	I-2 支援のスキルアップとサービスの質の向上	③権利擁護、虐待防止の推進に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止に関するアンケートについて、結果をまとめた後、各事業所でのように生かしていくかが重要。</li> </ul>	A
		④学びによる「支援のプロ集団化」を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達研修等で十分な共有ができてるか。また実践につながっているか。</li> <li>・学んだことを現場でいかに生かせるか、そこを重要視していただきたい。</li> </ul>	A
	I-3 災害対策・感染症対策の強化	⑤BCP(事業継続計画)を整備、危機管理対策(災害・感染症)を強化、必要に応じて他法人との連携を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況が△(一部未達)や×(未達)の場合、その理由も記載していただきたい。</li> </ul>	B
<b>II 人財 に対する姿勢</b>	II-1 人財の確保と定着・育成	⑥法人間連携を含む多様な採用活動に取り組み、人財確保に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事を切り分け、多様な人材を雇用できるよう環境整備を行なっていたか。</li> <li>・外国人人材について、検討はしていないか。</li> </ul>	A

		⑦キャリアパスの強化と研修体系を活用し、魅力ある職員の育成を推進します。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。	A
	Ⅱ-2 魅力ある職場づくり	⑧ICT化、アウトソーシング化を推進し、業務の効率化を図ります。	・評価指標に、有休取得、ノー残業デー週2日の「啓発」とあるが、文言を「推進」としたほうがよいのではないか。	A
		⑨職員間コミュニケーションの活性化を推進します。	・評価指標が「コミュニケーションが活性化されたか」といったあいまいなものになっている。職員アンケートを実施して評価の材料にしてはどうか。	B
Ⅲ 法人マネジメントに対する姿勢	Ⅲ-1 新たな事業の展開と既存事業の見直し	⑩制度・地域の動向とニーズを見極め、既存事業を見直します。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。	A
		⑪制度・地域の動向とニーズを見極め、必要な事業を検討・実施します。	・重層的支援体制整備事業は非常に重要な取り組み。どこも対応できない、いわゆる狭間の人への対応に取り組んでいただきたい。	A
	Ⅲ-2 経営の安定と強い組織づくり	⑫適正な収益を確保し安定した財政基盤を構築します。	・「待ち」の姿勢になっていないか？利用者の自然増を期待していないか？「攻め」の姿勢で臨んでいただきたい。	A
		⑬社会的な責任と使命を果たすため、公正かつ適正な経営を可能とする組織統治を行ないます。	・長期経営計画については、「10年後の法人のありたい姿」を示せばよいのではないか。	B
	Ⅳ 地域社会に対する姿勢	Ⅳ-1 地域貢献に関する取り組み	⑭福祉課題・生活課題に主体的にかかわり、既存の制度では対応できない取り組みを推進します。	・事務局の報告に対して、評価委員からの質問、意見は特になし。
⑮各事業所と地域とのつながり強化に取り組みます。			・コロナ禍の影響で実施できなかったものについては「×(未達)」ではなく「-」と表記したほうがよい。	-
⑯福祉教育を通じて各学校との連携を強化し、障がい理解を広げます。			・コロナ禍の影響で実施できなかったものについては「×(未達)」ではなく「-」と表記したほうがよい。	C